

<署名へのご協力のお願い>

## 江東区「仙台堀川公園整備計画」について

仙台堀川や多くの樹木、公園の2割がなくなり、木陰や散歩・憩いの場が失われます  
タカが暮らすほど豊かな子どもたちが生きもの（いのち）に触れる場もなくなります

「仙台堀川公園整備計画」が江東区で進められています。開園から30年が過ぎ、当初目的の「区民の森」となり、地域に親しまれている公園ですが、整備計画は、公園面積を8割に減少し、現在ある樹木のほとんどを伐採するもので、突然の出来事に驚いています。

今回の計画の目的である「公園内の歩行者と自転車の錯綜」についての必要性は理解できますが、その課題解決は後に示したとおり、歩行者と自転車のゾーン分けなど、他の方法でも実現できるもので、現在の計画ではあまりにも失われるものが多くなっています。

特に、大きく育った樹木がもたらす緑陰は公園利用者に過ごしやすい場を提供しており、近隣にここしかないエビや小魚のいる池は、子どもたちの格好の遊び場、学習の場になっています。また、絶滅危惧種のタカ“ツミ”も営巣しており、整備によりこれらの環境が失われます。

このため、今回の計画を江東区に再考していただくための署名を行い、現在の環境を保全したいと考えております。

以下に、今回の整備の問題点や改善案などを整理しましたので、参考にいただき、ご署名にご協力いただけると幸いです。何卒よろしく願いいたします。

仙台堀川公園を考える会  
東京都江東区北砂 6-27-14  
TEL:03-5635-9955 FAX:03-5635-9956  
E-Mail: info@senbori.com  
URL: <http://www.senbori.com/xoops>



●**仙台堀川公園 30 年間の価値について…現在の計画では下記のものが失われます。**

仙台堀川公園は、開園から 30 年を経ており、地域住民及び子どもの時からこの地に育った方々のふるさとの原風景になっています。

地域の方々が憩う空間となっており、夏の暑い時期には、大きく育った木々がほぼ全域に緑陰をつくり、涼しく散歩しやすく、ジョギングなどを楽しむ人々も多くいます。

近隣の保育園、幼稚園、小学校では、長い年月で育まれた豊かな自然の中で、さまざまな種類の樹木があり、いろいろな種類の鳥がいるなど、自然観察や葉っぱを使った工作など、他の公園にはない仙台堀川公園ならではの活用をして来ました。

壁当て広場は、かつての継ぎ足し護岸の歴史を示すプレートなども設置され、歴史的構造物を有効活用した好事例とも言え、地域の歴史資産のひとつになっています。

あわせて、旧護岸は、子どもたちの飛び出し防止、落ち葉の飛散防止にも役立っており、園内への出入りを考えた場合、必要な箇所のみ解体で解決できます。

●**子どもたちにとってかけがえのない空間が、現在の計画では失われます。**

八ツ橋の池は、子どもたちの通称で“ザリガニ池”と呼ばれ、平日から多くの子どもたちが水辺に親しみ、週末には遠方からもたずね来る親子がいるほど、都会のなかで自然を感じ、生物・生命・いのちを学ぶことのできるかけがえのない場所になっています。まさに子どもたちの心と体を育み、また大人にとっても子どもと一緒に水辺自然に親しみつつ自身のいのちの思い出を呼び起こすことのできる素晴らしい親水空間です。

壁当て広場、お山すべり台、身体を隠すことができる大きな木、落ち葉遊びができるほどの落葉、夏は照り返しが少なく、緑陰があり、さまざまに工夫して遊べるゆとりがある空間が、近隣の亀高公園や城東公園にない特徴となっています。

●**都市の中で育まれた生物多様性豊かな自然環境が、現在の計画で失われます。**

「区民の森」として、30 年にわたる管理をしてきた結果、大きく育った木々により、初期の目的である「森」となり、この緑量から、多くの鳥類が生息できる空間になっており、都の絶滅危惧種になっているタカ“ツミ”が営巣する東京都内でも希少な環境になっています。かつて、特定域の剪定ですら、生息数の減少につながり、今回の多くの樹木の伐採では、種類、個体数ともに激減が見込まれます。

ガマの池、八ツ橋の池は真水の池ですが、今回の計画でなくなり、汽水もポンプアップによる最大水深 30cm の水路となるため、淡水、汽水ともに魚類の生息は見込めず、この結果、サギやカワセミが飛来することはなくなり、水鳥の生息空間としても適さないことから、森と水の喪失により、多くの生きものがいなくなり、人々に親しまれていたカルガモの子育ても見られなくなります。

●**道路拡幅で公園域が狭められ、そのため自然環境の低下、また災害時の防火帯や避難場所等の防災機能が損なわれます。**

現在の計画では、車道に自転車走行空間と植栽帯を新たに設けるなど、片側 4m、両側合わせて 8 m の道路拡幅を行い、公園内の園路も 3m から 4m に拡大され、その結果、公園域が大きく縮小されます。

薄く細った公園緑地では、工事後に現在のレベルの自然豊かな公園環境への回復は困難であり、緑地のもつ気候緩和等の環境調整機能が低下し、災害時には道路に車両が埋

め尽くされることや暗渠道路の崩落の危険性、さらに防火帯や避難所として、公園が有す防災機能の低下は明らかです。

●**自転車と歩行者、車輛の交通安全について、現在の計画より有効な計画があります。**

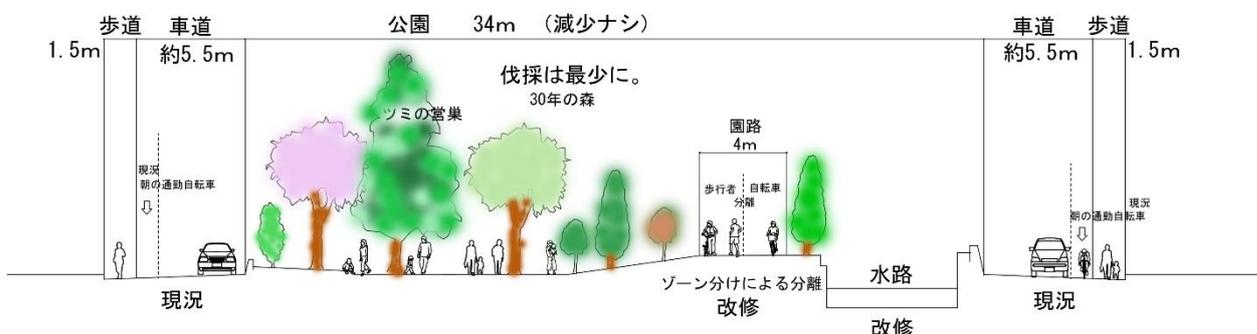
公園内の園路は、歩行者に気をつけた自転車の園路利用が可能で、公園を通過する場合に車道の自転車走行空間へ誘導するとしています。この結果、自転車は、車道片側自転車走行2列の両側4列と園路利用が可能になりますが、仙台堀川公園の他の場所や区内の他の緑道と同様に、歩行者と自転車のレーン区分で対応すれば、車道の拡幅は不要で延長1.1km、8,800㎡の公園面積や大きく育った樹木の多くを失うことなく課題の解決が可能になります。

緑量不足から、植栽帯を設けるとしてはありますが、既存の公園を活かすことで、現在の豊かな緑を損なわずに済み、課題を解決するための税金の投入を大幅に削減し、区民の負担を減らすことができます。

また、車道を広げることは、車輛がこれまでよりスピードを出しやすい環境になり、新たに車輛を導くことにもつながります。さらに、お年寄りや子どもたちに対し、横断に伴う負担を強いることになります。

電線の地中化は、景観の向上など、好ましい点も多々ありますが、地中化に伴い道路上に関連施設を設置せざるを得ず、これは子どもたちやかがむことが多くになっているお年寄りも高さがあり、これまでになかった死角を生むことになります。

電柱倒伏による危険性も考えられますが、こうした危険性よりも、日常生活に潜む危険性に留意すべきと思われます。



公園の幅を保ち、既存の樹木を保存しながら、ゾーン分けによる歩行者と自転車の分離が可能です

●**公園施設の老朽化に対しては、大規模工事ではなく適切な管理で対応すべきです。**

老朽化し施設については、当然、適宜の更新が必要です。しかし、公園環境を一変させる大規模工事は、大きな区民のための予算が使われることはもちろん、長い時間で育まれた公園・緑地の環境を損なうことにもなります。

現在の園路の樹木の根上り等による凹凸や池底への周辺土砂の堆積などは、土地環境の変化については適宜の管理作業として対応すべき事項です。

加えて、利用者や地域の方々と一緒になって管理手法や今後の管理計画を見直すことで、一層豊かな公園環境とその快適な利用を育んでいくことができると考えています。

※「仙台堀川公園整備計画」の問題については、さまざまな意見・提案があり、現在整備中のホームページ <http://www.senbori.com/xoops> に、各種資料を集めているところです。ぜひ、ご覧ください。